

ゼレンスキーと御用メディアの危険な嘘がバレる

A・ルビンシュタイン

グレイゾーン 2022年11月18日

[Zelensky, media lackeys caught in most dangerous lie yet - The Grayzone](#)

第三次世界大戦の引き金になりかねないキエフの嘘がバレた。これを機会に、西側メディアが過去に撒き散らした多くのフェイクについて検証する。

11月15日、ポーランドでミサイルが爆発し、2人の市民が死亡、農機具が破壊された。ウクライナのゼレンスキー大統領と西側メディアは、この爆発をロシアのせいにしようと躍起になった。NATO憲章の第5条は、ある加盟国が敵対勢力から攻撃された場合、他の加盟国は軍事的に相互防衛することを義務付けているからである。

その後、ポーランドとバイデン大統領、およびNATO加盟国は、このミサイルが実際にはウクライナの保持するS-300対空ミサイルであったことを確認している。しかし、ゼレンスキー氏はロシアを非難する姿勢を崩さず、NATOのストルテンベルグ事務総長も「最終責任はロシアにある」と言い続けている。このような混乱の中で、当初反射的にロシアに矛先を向けたメディアは、一歩後退を余儀なくされている。

ゼレンスキーがついた嘘

ゼレンスキーは攻撃当日の11月15日にこう主張した。

「ロシアのミサイルが友好国のポーランドを襲った。人が殺された。“NATOの領土”にミサイルを撃ち込むならば、それはロシアのNATOに対する戦争行為だ。これでもロシアが罰せられないのなら、ロシアのミサイルが届く範囲にいる人は、これからもっと脅かされることになる。これは非常に重大な戦闘のエスカレーションである。いまこそ我々は行動しなければならない」

翌日、ゼレンスキーは、自国の防空ミサイルが原因であるという証拠が次々と出てきたにもかかわらず、頑強に主張した。

「私は軍事的な報告に基づいて、これは我が国のミサイルではない、これはロシアのミサイルだと信じている」

しかしすでにこの時点では、ほとんどのアナリストがウクライナ大統領の評価を否定していた。その中には、アメリカ政府が支援する諜報機関ベリングキャットの創設者も含まれている。彼はこの時点で、「現在の証拠に基づいてロシアのミサイルがポーランドを攻撃したと言う人は、無責任だと思う」と書いている。

ロシアが NATO 加盟国のポーランドを攻撃した場合、北大西洋条約機構の第 5 条が発動され、加盟国は「ある同盟国に対する攻撃」を「すべての同盟国に対する攻撃」と見なすことを強制される可能性があった。そのような動員が行われていれば、それは第三次世界大戦に匹敵する規模となっていたであろう。

このような破滅的なエスカレーションが起こる危険性は明らかであるにもかかわらず、—あるいはそうであるがゆえに— 欧米の商業メディアは直ちに、この攻撃の責任をロシアになすりつけた。

ロシアがなぜポーランドの農地を重要な軍事目標とみなしたのか、30 カ国からなる NATO との全面戦争に踏み切ろうとしているのか、という当然の疑問さえも投げかけなかった。

ロシアはポーランドの田舎のただの農地を、30 カ国からなる NATO との全面戦争を覚悟してまで、なぜ重要な軍事目標と考えたのだろうか。

AP 通信の勇み足から始まった

当初、AP 通信は、"ロシアのミサイルがウクライナへの攻撃中にポーランドまで飛び込んだ" (cross into Poland) という見出しで報道した。記事は "米国情報機関の高官" の発言を引用し、その後、"第二の人物" の見解も求めている。11月16日、AP は元記事へのリンクを抹消し、訂正記事にリダイレクトし始めた。

訂正記事は以下の通り。

「AP 通信は、米国情報機関の高官が匿名を条件に発言した内容を基に、"ロシアのミサイルがポーランドに侵入し、2名が死亡した" と誤って報道した。その後の追跡で、ミサイルはロシア製であるが、ウクライナが所有するものであり、ロシアの攻撃に対する防衛のためにウクライナが発射し、誤ってポーランド領内に飛来した可能性が高いことが判明した」。

商業メディアがウソを上塗りした

タイム誌は、「ロシアのミサイルが空爆中にポーランドに侵入し、2人を殺害」という見出しで、AP 通信の報道を引用して掲載した。

フォックス・ニュースも同様に、「ロシアのミサイルが NATO 加盟国のポーランドを横断、2人死亡：米情報当局高官」と発表し、AP 通信を引用している。MSNBC も見出しで「ロシアのミサイル」と非難した。

CNN はさらに踏み込んで、「ポーランド、ロシア製ミサイルで2人死亡、NATO 条約第4条発動を検討」と報じた。NATO 第4条は、加盟国のいずれかが「脅威」を受けた場合に行われる NATO 諸国会議について定めたもので、第5条の発動に先立ち行われることになる。

CNN と同様、ロイターはポーランド外務省を引用して、「ロシアのロケット弾が自国領土に命中、NATO は対応を検討」という見出しを掲げた。

ニューヨークタイムズがウソを塗り固めた

ニューヨークタイムズは、ミサイル攻撃に関する報道の2文目で、"ロシアがウクライナに約90発のミサイルを発射したため、爆発が起きた"と述べている。そしてその2行後に、"地元メディアはロシアによるミサイル攻撃かと示唆"と述べている。この新聞の読者は、ロシア当局が責任を否定したことを読むには、画面を数回スクロールダウンしなければならなかった。

戦争が始まった頃、ニューヨークタイムズは「ウクライナのオンライン・プロパガンダ」という記事を掲載し、ウクライナ政府がフェイクニュースを押しつける傾向があることをなんとか控えめに扱おうとした。そしてキエフの情報戦は、単に「ウクライナの不屈の精神とロシアの侵略の物語をドラマチックに味付けする」だけだと述べた。

ついで記事は、ある無名のTwitterユーザーの発言を引用している。「なぜ、人々があることを信じるままにしてはいけないのか。もしロシア人がある信念によって行動するなら、それは恐怖をもたらすが、もしウクライナ人が信念に基づいて行動すればそれは希望をもたらすだろう」

それはこれまでのウソの延長線上にあった

米国のメディアはウクライナの宣伝活動を支援し続けた。きわめて疑わしい出来事をつゆほども疑わずに報道した。そしてそのことで、さらにフェイクを助長することになったのだ。

これらの疑わしい事件には、次のようなものがあった。

* 3月8日、西側メディアはマリウポルの産科病院がロシア軍機によって攻撃されたと報じた。ゼレンスキーは、この攻撃はロシアのウクライナに対する「大虐殺」の証拠だと主張した。

しかし、重要な目撃者であるAPが撮影した病院の妊婦は、そのような空爆はなかったと述べている。そして近くで起きた爆発はウクライナの砲弾によるものだと証言した。

* 3月16日、ウクライナ政府は、マリウポリ演劇劇場を破壊し、300人から600人の死者を出したとして、ロシアの標的型空爆を非難した。しかしミサイル攻撃を示す映像は全く示されなかった。

それにも関わらず西側企業メディアはウクライナの説明を大々的に宣伝した。今日に至るも、劇場で多数の民間人が死亡した映像や証拠もなく、救助を試みた映像や証拠もない。

マリウポリ住民の証言によると、劇場の敷地を支配していたアゾフ大隊（ネオナチ）の戦闘員がNATOの軍事介入を誘発するために爆発を演出したという。現場写真からは、爆発の1日前にAzovの戦闘員が劇場の駐車場からすべての車両を撤去したことが明らかである。

* クラマトルスク駅爆破事件では、ミサイルがウクライナ支配地域から発射されたにもかかわらず、ロシアの責任とされた。爆破されたトーチカUミサイルは、その製造番号がウクライナの保有する他のミサイルと一致している。

ウクライナのウソは賞味期限を迎えた

戦争が長引くにつれて、バイデン政権の一部は、ウクライナ政府筋の大げさな話にしびれを切らしているようだ。NATOのある幹部は、11月16日付のフィナンシャル・タイムズ紙にこう語った。

「段々と話がばかばかしくなってきた。ウクライナ人は公然とウソをついて、我々の信頼を失墜させている。それはある種、ミサイルよりも破壊的だ」
(了)

【鈴木頌さんのブログから】